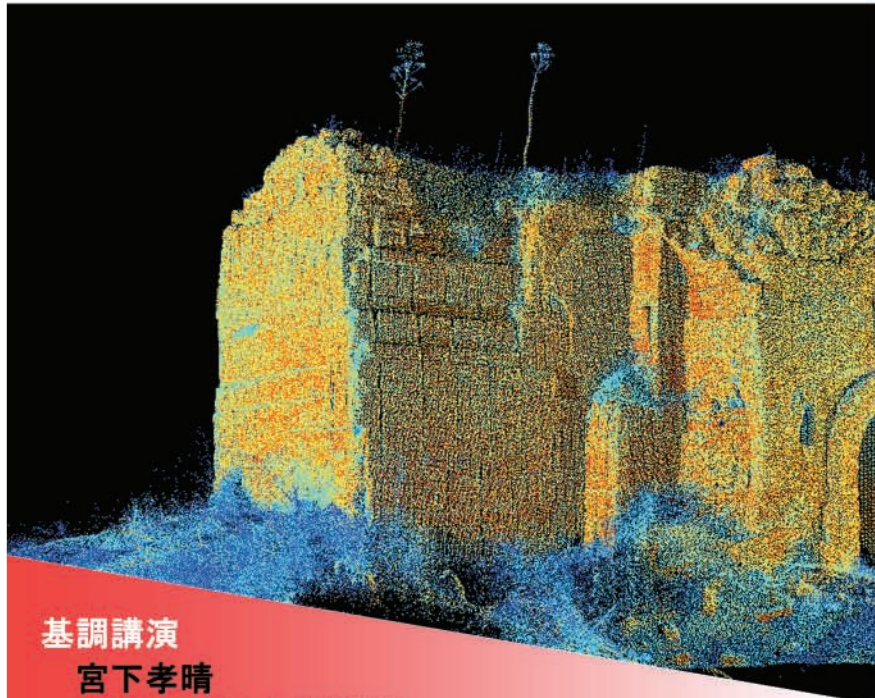


金沢大学フレスコ壁画研究センター 写真展 & 国際講演会

主催：金沢大学フレスコ壁画研究センター
共催：大塚国際美術館
後援：文化庁



基調講演

宮下孝晴

(金沢大学人文学類教授、
フレスコ壁画研究センター長)

パネルディスカッション

栗原祐司 (文化庁文化財部美術学芸課長)

建石徹 (文化庁文化財部古墳壁画室古墳壁画対策調査官)

大杉栄嗣 (大塚オーミ陶業(株)取締役兼常務執行役員)

岡村修二 (大塚国際美術館理事・学芸部長)

司会：宮下孝晴 (金沢大学人文学類教授)

写真展：2012年1月29日(日)～3月11日(日)
B3 センターホール 無料 (要入館料)

金沢大学がイタリアの壁画に対して実施してきた修復、復元、調査、記録の様子を、現場で撮影された貴重な写真で綴ります。簡単には移動できない建造物に描かれたイタリアの壁画の修復と保存に取り組む金沢大学調査チームの姿と、国立フィレンツェ修復研究所との共同プロジェクトで得られた成果を多くの写真で紹介します。展示は二部構成になっていて、第一部はフィレンツェのサンタ・クローチェ教会大礼拝堂の壁画「聖十字架物語」修復プロジェクト(2004-2011)、第二部は南イタリアの中世洞窟壁画群調査プロジェクト(2010～)です。

講演とパネルディスカッション:

2012年1月29日(日)13:00～16:00

B3 システィーナ・ホール 無料 (要入館料)

絵画という文化遺産を後世に残すために保存科学や修復技術の進化発展は重要ですが、同時に「現状」を高精度で劣化のないデジタルデータとしてスキャンして記録する「デジタル・アーカイブ」の形成も忘れてはなりません。イタリア壁画の現状記録の最前線にある金沢大学フレスコ壁画研究センターの宮下孝晴教授の基調講演のあと、デジタル・アーカイブとセラミック・アーカイブの未来についてのパネルディスカッションも予定しています。

フレスコ壁画の修復・復元・保存の最前線 ～デジタル・アーカイブとセラミック・アーカイブの未来～

宮下孝晴 Takaharu Miyashita



1949年生。東京都出身。フィレンツェ大学美術史科卒。1973～84年イタリア在住。現在、金沢大学教授。専攻はイタリアの中世・ルネサンス美術史。主な著書に『宮下孝晴の徹底イタリア美術案内』(全5巻 美術出版社)、『フレスコ画のルネサンス―壁画に読むフィレンツェの美』(NHK出版)、『メディチ家 12の至宝をめぐる旅』(アスキー新書)など。

2004年からフィレンツェのサンタ・クローチェ教会大礼拝堂に描かれたアーニョロ・ガッディのフレスコ壁画「聖十字架物語」(1380年代)の修復プロジェクトを統括。2010年からは、文科省特別経費による南イタリアの洞窟教会に描かれた中世壁画群の日伊共同調査プロジェクト4年計画を開始。2010年、イタリア共和国より「イタリア連帯の星」勲章「カヴァリエレ(騎士)」章を受章。

【金沢会場】

写真展：2012年3月17日～24日

講演会：2012年3月17日13:00～

場所：しいのき迎賓館 要申込

詳しくはフレスコ壁画研究センター
ホームページで